

OATGE51 薬理学

1.0 単位, 1 年次, 春AB 月5

榎 正幸, Lazarus Michael, 大林 典彦, 榎 和子, 岡田 拓也, 大石 陽, 斉藤 毅

授業概要

目標: 薬理学の概念と最新の薬理学的研究、創薬技術を理解し説明できる。薬理学に関する基礎的知識を学修する機会を提供している。

- (1) 薬理学の基本概念を述べることができる。
- (2) 受容体とシグナル伝達について説明できる。
- (3) 薬物の生体への作用について説明できる。
- (4) 薬理学分野の最先端研究に触れ、その内容を理解し説明できる。
- (5) 創薬の方法を説明できる。

備考

英語で授業。

オンライン(オンデマンド型)

授業方法

講義

学位プログラム・コンピテンスとの関係

基礎知識の活用力

授業の到達目標 (学修成果)

- 1) 薬理学の基本概念を述べることができる。
- 2) 受容体とシグナル伝達について説明できる。
- 3) 薬物の生体への作用について説明できる。
- 4) 薬理学分野の最先端研究に触れ、その内容を理解し説明できる。
- 5) 創薬の方法を説明できる。

キーワード

受容体, イオンチャネル, シグナル伝達, 用量反応曲線, 創薬, 薬物動態

授業計画

- 第1回 (4月15日、5時限) 榎正幸
薬理学概論
- 第2回 (4月22日、5時限) 岡田拓也
生理活性物質とシグナル伝達
- 第3回 (5月7日、5時限) ミハエル・ラザルス
神経系の薬理(1)

- 第4回 (5月13日、5時限) 榎正幸
神経系の薬理(2)
- 第5回 (5月20日、5時限) 榎和子
神経系の薬理(3)
- 第6回 (5月27日、5時限) 齊藤毅
G蛋白質共役受容体の構造と薬理
- 第7回 (6月3日、5時限) 大林典彦
循環器系の薬理学
- 第8回 (6月10日、5時限) 丹羽康貴
神経調節分子の薬理
- 第9回 (6月17日、5時限) 大石陽
薬物動態学
- 第10回 (6月24日、5時限) 奈良岡準
創薬

履修条件

なし

成績評価方法

小テストの合計点(50%)と提出したレポート(50%)により標語(A+~D)で評価する。

学修時間の割り当て及び授業外における学修方法

授業は全てオンライン講義(100%)で実施する。

授業範囲を予習し、授業後には必ず復習すること。

7割以上の出席およびレポート提出を単位取得要件とする。

Manabaに掲載した講義動画を視聴し、提出締切日までに小テストに解答し提出することをもって、授業に出席したものとする。

教材・参考文献・配付資料等

講義資料レジメをmanabaで配布し、それをを用いて勉強する。指定する教科書は無いが、講義の中で推薦する教科書や論文を紹介することがある。

オフィスアワー等(連絡先含む)

随時(メールで予定を確認のうえ、訪問すること)

その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)

他の授業科目との関連

ティーチングフェロー(TF)・ティーチングアシスタント(TA)

なし